



病室に届いた「感謝」の文字

異常な猛暑が続いた昨年の盆前の頃、思い出すたびに心が和みうれしくなることがあります。近くの友人から教室に行きたいと相談がありました。「義父からの要望で【感謝】の二文字を筆で書いてほしい」と言われ困っているとのこと。彼女の書道歴は十五、六年ぐらい前、当時小学生だった子供さんと一緒に机を並べた時期が一年位あったでしょう。それ以来です。超多忙な彼女ですが、何とかがんばってお義父さんの願いをかなえてあげたい一心で、早速教室に来ることになりました。

お義父さんは九十五歳になられ、高齢のため入院療養中です。長年りっぱな仕事をなされた方で、社会貢献、とりわけ地域のことは多大なお力を尽くされました。それだけに「今日まで大変多くの方にお世話になった、これからは毎日【感謝】、感謝」の気持ちで過ごしたい、そして病室の壁にお嫁さんの筆で書かれた【感謝】の文字がほしい」と要望

されたのでした。

息子のお嫁さんである彼女も忙しい中をぬって土曜日の教室に来ることになりました。一度だけ来られたのですが、後は自宅で書くことになりました。二週間後、十枚ぐらいの作品を持って来られました。早くお義父さんに渡したい思いもあり、その日に一枚を選ぶことにしました。黒板に貼り、教室生みんなで選ぶことにしました。貼り終えた後、何とも温かい雰囲気教室内に満ち、全員の拍手喝采が始まりました。私もジーンと胸に来るものがありました。彼女の人の人柄のじんだ、やさしく心に響く作品ばかりでした。教室生も大変共感され、彼女のやさしい思いにうつつすらと涙を浮かべる人もいました。

選ばれたのが写真の【感謝】です。表装は病室の壁に飾るので軽い紙額に、やさしく落ち着いた色にしてほしいと彼女らしい要望でした。早速皆文堂さんに依頼し、なんと二

理事 山崎 五月
(皇月)

日で仕上げていただき、いち早く届けることができました。後日彼女から、お義父さんが「もう書いてくれないのだからとあきらめていたのに、書いてくれたんじゃな」と大変喜ばれていること、病室に出入りされる方々も「心に響くやさしい字ですわ」と目を留めてくださるとのことです。

【感謝】の二文字は、鉛筆、ボールペン、マジックより筆で書かれた文字が最高なんですわね。

壁に掛けられた念願のお嫁さんの字を眺めながら、お義父さんがどうかいつまでもお健やかな日々を過ごしてくださいませよう、陰ながらお祈りいたしております。

